

## 知床森林生態系保護地域の区域の見直しを検討しています

北海道森林管理局では、知床森林生態系地域の区域の見直しを検討しています。現在の森林生態系保護地域は平成2年度に制定されましたが、その後の

- ① 平成10年に「国有林野の管理経営に関する法律」が定められ、管理経営の方針が公益的機能重視に転換されたこと。「国有林野の管理経営に関する基本計画」においては、自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存等を図るうえで重要な役割を果たしている森林を「森林と人との共生林」に区分し、自然環境保全を第一とした管理経営を行うこととし、その中で特に原始的な天然林や貴重な動植物の生息・生育地等特別な保全・管理が必要な森林については、保護林として指定することとしたこと。加えて、森林生態系保護地域を中心に保護林とのネットワークの形成を図るため、「緑の回廊」を設定し、野生生物の自由な移動の場として確保するなど、より広範で効果的な森林生態系の保護に努めることが計画され、平成13年には「知床半島緑の回廊」が設定されたこと。
- ② 一方、平成15年5月には、環境省と林野庁による「世界遺産候補地に関する検討会」において、知床が他の2地域と共に世界自然遺産の候補地となり、10月には、環境省と林野庁が3候補地のうちから、国が推薦書の提出を目指す地域として知床を選定したこと。

などの状況を考慮して、知床森林生態系保護地域の区域についてその見直しを図ることといたしました。

このため、10名の委員からなる「知床森林生態系保護地域設定委員会」を発足し、10月23、24日の両日、当センターの2階セミナー室において第1回設定委員会を開催し、現在の区域を遠音別岳周辺まで拡大する方向で検討することが了承されました。また、24日には、羅臼岳周辺から遠音別岳周辺までの上空をヘリコプターで視察しました。

第2回設定委員会は11月18日に札幌市で開催し、保存地区並びに保全利用地区に関する具体的な線引きについて協議しましたが、



第1回設定委員会をセンターで開催しました  
合意までには至らず、次回（12月12日、札幌市にて開催）へ委員会としての結論を持ち越しました。

## 世界自然遺産登録を巡る動き

10月16日、環境省と林野庁は、国が世界自然遺産推薦書の提出を目指す地域として知床を選定し、公表しました。その後の主な経過並びに今後の予定は次の通りです。

平成15年10月27日	第1回地域連絡会議
平成15年11月5日	第2回地域連絡会議
平成15年11月12、13日	知床世界遺産候補地管理計画（案）地元説明会
平成15年11月7日～27日	知床世界遺産候補地管理計画（案）に関する意見募集
平成15年12月5日	第3回地域連絡会議
平成15年12月15日	第4回地域連絡会議
平成16年1月（予定）	関係省庁連絡会議



北海道森林管理局北見分局 知床森林センター  
〒099-4113 北海道斜里郡斜里町本町11番地  
電話 01522-3-3009 FAX 01522-3-3160  
ホームページ <http://www.siretoko.knc.ne.jp/>



(写真：エゾリス)

## 知床は今

知床にも冬の使者であるオオワシやオジロワシが飛来する季節になりました。

オオワシは翼を広げると220cm～245cmになる日本最大の猛禽類です。

オジロワシは翼を広げると180cm～230cmでオオワシよりも一まわり小さい猛禽類です。

主にオホーツク海北部沿岸やサハリンなどから10月下旬から11月上旬に知床へやっ



オジロワシ

て来ます。

11月中旬頃に青空に映えるオオワシの姿を見ることができ、その勇壮な姿に感動しました。本格的な冬になると、流氷の塊の上や断崖沿いの木の枝の上に止まるオオワシやオジロワシの姿をよく見かけます。

仕事で斜里からウトロへ向かう海岸沿いの断崖の上を空高くグライダーの様に滑空するオオワシやオジロワシの姿を見ると、知床にも厳しい冬がやって来る前ぶれを感じます。



オオワシ

第49回 森とのふれあい

「森の恵みのクリスマスリース作り」を開催

～町内の小学生、おかあさんなど21名が参加～

第49回「森とのふれあい」を、11月23日（日）に開催しました。

講師のひとり古川範子さんは、町内で華道教室を開いており、またドライフラワー、リースなどを町内の金融機関などで展示し訪れた人々の目を楽しませています。是非この機会に古川さんからリース作りを学びたいと21名の参加がありました。

最初に、センター職員からハサミなどの道具を使う上での注意点及び講師から材料の取扱い方などの説明を受けた後、

- ① トドマツの先葉を約15cmの長さに切り揃え、約10本ずつ16束程用意する
- ② リングに①で用意した先葉の束を順序よく縛り付け、リースの原形を作る
- ③ ②のリースにストロブマツ、アカエゾマツ、トウヒなどのマツカサを3～15個程縛りつけた後、シルバーベル、リボン、オーナメント（赤い造花）を飾り付ける

などの作業を行い、約3時間で21個のクリスマスリースが出来上がりました。

最後に、出来上がった作品を持って、班ごとに記念写真を撮り終了しました。また、余ったトドマツの先葉などを持ち帰り、改めて家で作りたいとの声もありました。

参加者の小学生は、「難しかったけれども、皆さんに手伝ってもらって完成させることが出来ました。私の部屋に飾っておこうかな」とうれしそうに話し、リースを大事に抱え帰っていきました。また、お母さんの中には、「こんなに大きくてすてきなクリスマスリースができるとは思っていませんでした。来年は友達を誘って参加したいです」と興奮気味に話される方もいらっしゃいました。

森林の香りが家を包み、すてきなクリスマスがきっと迎えられるでしょう。



先葉の山に悪戦苦闘しました



リングに葉の束を縛ります



リボンが最も難しかったようです



すてきなリースができました

『ミズナラ堅果結実調査』の結果まとまる

～今年は並作でした～

「ミズナラ堅果結実調査」の平成15年の調査結果がまとまりました。

この調査は知床半島の主要な樹種の一つであるミズナラのドングリの結実を調べていて、平成元年から毎年実施しています。調査地は知床半島の岩尾別地区15本・イタシュベツ地区10本の2箇所に設け、全部で25本のミズナラを調査木として選んでいます。ドングリを集めるのは9月中旬から10月下旬までで、一週間毎に6回集めます。その方法は、各調査木の枝の下に、ドングリを受け止めるための寒冷紗（かんれいしゃ）で作った1辺四方のトラップ（写真右）を調査木1本当たり3個、全部で75個設置し、そこに落下するドングリを集めます。集めたドングリは1個ずつ重さを量り、重さ、個数を集計し、樹冠面積に対する係数をかけて数量を算出します。



ミズナラ1本につき、3個のシードトラップを設置します

今年は、トラップ内に落下したドングリが動物に食べられたり、毎週回収できないなどのアクシデントもありましたが、調査結果は下のグラフのようになりました。調査木1本当たりのドングリの数は平均2,579粒、ドングリ1粒あたりの平均重量は2.5グラムでした。昨年に続き並作となりました。

調査して気のついた点は、岩尾別地区は平年並みの結実がありましたが、知床半島中部のイタシュベツ地区は全体の2%と極めて結実が悪く、この地区のみでは凶作と言える結果となりました。

年度別 堅果個数及び平均重量

